



ミャンマーの医療事情について講演するミヤット・ツウ教授＝名駅のミッドランドスクエアで

ミャンマー医療実情紹介

名駅で講演会 支援呼び掛け

発展途上国への医療支援を考えるフォーラム(中日新聞社後援)が十六日、名駅のミッドランドスクエアであり民主化が進展する東南アジアのミャンマーの実情が紹介された。医療関係者らでつくるNPO法人国際医療連携ネットワーク(事務局・昭和区)が企画

し、市民ら百二十五人が出席した。

藤田保健衛生大で研修した経験を持つヤングン第一医科大のミヤット・ツウ教授が講演し、脳神経外科の拠点国が国内四力所しかなくて、検査機器などが不足している現状を紹介。「診断の際にはすでに病気が進行している場合が大半だ」と述べ、支援を呼び掛けた。

同法人の神野哲夫理事長は「弱者に優しい視線を向ける支援をしたい。まずはミャンマーで人間ドック、脳ドックの芽を出したい」と訴えた。(鈴木龍司)